

第2回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成27年8月25日（火）午後1時30分～
栗東市役所4階 第3・4委員会室

1. 開会

（会長あいさつ）

地方創生が全国で取り組まれています。本市は人口では恵まれた状況にあるが、一方健やかなにぎわいのあるまち、もっと魅力のあるまちを目指し、この機会を生かし、将来の礎をつくっていかねばと考えています。皆様の知恵を出し合い、よりよい地方創生のご意見をいただければと考えています。本日もよろしくお願いいたします。

（市長あいさつ）

平素栗東市の行政にご協力賜り、ありがとうございます。今回2回目の懇談会ですが、1回目は地方創生の考え方、本市の人口の現状などの説明をいたしました。

この機会に何をなすべきか考え、そしてそれを実行することが重要であり、この地方創生の機会を大切にしたい。人口が伸びているから安心ではないかと言われますが、そうではない。先人が頑張ってきたことをこれからの時代にどのようにつないでいくか、市としてビジョンをつくっていく必要があります。いろいろ意見をいただければ実行できるよう努力してまいります。

2. 委員紹介について

（省略）

欠席：村木委員、奥村委員、田口委員

3. 協議事項

（1）（仮称）栗東市人口ビジョン（素案）について…資料1

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

会長

人口ビジョンとして、平成27年の住民基本台帳人口を基に推計している。その結果、人口のピークとなる年代が、国立社会保障・人口問題研究所の推計結果よりも早まることも予想されている。また、若い人の流入を維持し、子育て世代の人口流出を抑制するという観点から、将来の人口目標を提示いただいた。

委員

合計特殊出生率について、湖南4市の中で高い理由を説明いただきたい。

事務局

本市は20歳代から30歳代の若い年代の人口が多いこと。また、その世代の方の婚姻率も高いことといった、複合的な要因があると考えている。

それは何故かということだが、本市は借家率が高く、結婚した時に利便性の良い手頃な住宅がある。また、勤務している会社等の関係で、比較的安定した所得を年齢が若い時から得ているというというデータもあり、これらの複合的要因で、年齢が若い時から子どもを生み育てる優位性があるのではと分析している。しかし、年齢が若い時にだけ居住されて、いずれは住み替えのために、近隣の草津市や守山市に転出されてしまっているという傾向もある。

委員

様々な要因があると思うが、アンケート調査結果の検証も進めていく中で、この出生率の高さを分析し、具体的な施策を見出していくことが重要ではないか。

委員

13ページに高齢化率があるが、若い人の比率が高いのは駅周辺のことか。子育て世代が転出しない施策を突き詰めて考えてはどうか。

事務局

大宝東学区や治田西学区など、駅に近く利便性の良いマンションやアパートの供給が多い地域で、若い世代の転入が多いのではないかと考えている。ここに転入した人が栗東市に定住してもらうことが重要なポイントであり、今後の内部の検討部会において、その施策を検討していきたい。

委員

例えば、他市との子育て支援施策の比較を行い、人口が流出しないような施策を打ち出すことが大事ではないか。駅に近ければアパートの賃料が高いはずだが、若い人が入るのは、それなりの魅力があるからだ考える。学区によっては賃料が安い、車がなければ生活ができない。新しい住宅ができていながらもかわらず、入居する人が少ない。駅周辺には魅力があるので、もっとPRしても良いと思う。

委員

栗東市は4村の合併により出来ているという歴史もあり、国道1号の北と南で地域性に差があり、高齢化率も葉山東学区は高いが大宝学区は低いというように、それぞれ違いもある。市全体を一括して見るよりは、JR栗東駅周辺や市役所周辺などの地域性というものも考慮して検討する必要があるのではないか。

場所による地域間格差も出てくるので、全体とともに、地域的に見ていく必要がある。市内の特殊事情というものを踏まえることで、より精度の高い人口ビジョンができるのではないかと考える。

事務局

小学校区で高齢化率などに地域性があるが、全体の人口の考え方の中には、地域的なものは入っていない。これは、市内全体の統計データをベースにしており、地域的なデータでは人口推計が出しにくいいためである。人口目標としては市全体で考え、今後、地域ごとの施策は総合戦略で考えていきたい。

委員

若い世代の大学卒業後の市外への人口流出が多いのではないかと思う。このような若い人達の雇用を生み出す必要があるのではないか。また、高齢化で草津駅前のマンションに引っ越していき、買い物するのが便利などの日常生活の安定を図りたいという人が多い。そのため空き家になっているところもあり、リノベーションなどの活用ができれば良いと思う。

委員

京都市は観光都市であり宿泊客も多いが、奈良市は観光客が多くても宿泊は京都市や大阪市に誘客されていることから、ホテルなどの宿泊施設が建設されてきている。

財政面からも、人口を維持することは必要なことと思うが、住む人がいなくても観光客で賄うことはできないか。他市に人口が流出することを防ぐことと、もうひとつ観光に視点をあてて考えてもらいたい。

ゾーン別にみると金勝地区の人口は減っているが、文化財、施設は多い。バンガロー村や道の駅などがある。これらをどのように利用するか、大野神社など隠れたスポットがあり、訪れる人が多数いる。この人達にバンガロー村に泊まっていただき、体験していただくことなどが考えられる。

また、栗東八景の一つであるトレーニング・センターを見学するなどを、年間通して組み合わせていくこと。例えば、産官民でいっしょに考えていくことなどが考えられる。J A 栗東市、J R 栗東駅や観光業者などとのコラボレーションで、今年はこのゾーンを見学するとか、体験するとか組み合わせていけないか。1年間の期間をかけて東海道を歩くというイベントなどは、連続して参加される方も多い。年間4回程度のツアープランなどを実施すれば、栗東市の魅力の再発見に繋がっていく。折角、トレーニング・センターなどの良いところがあり、ウォーキングなどのイベントが地域で単発的に行事がされているが、小さなことから取り組むことが大切だと思う。

小中学校で、自然体験や仕事、工場体験などが行われ、子どもたちは栗東のことを学んでいるが、大人は意識が低いので地域の方に呼びかけることが必要である。

事務局

現在、地域資源活用ビジョンやシティセールス戦略などの策定に向けて検討をしており、住民の方に地域を知ってもらうことや、テーマ性、ストーリー性を持って効果的に情報発信していくことが必要であることなどの意見をいただいている。今後、プロジェクトチームなどで、検討を進めていきたいと考えている。

委員

先日、草津市の水生植物園水の森や熱気球がテレビで放映されていた。滋賀県内の方でも、このような施設やイベントを知らない人が多く、放映後、利用が増えたとのことである。メディアを活用して発信していくことも必要だと思う。

委員

草津市では介護施設と病院の連携しており、この重要性を実感した。同じ連携といっても家族の関与などの点で、介護施設と病院の対応が自治体で異なっている。今後は、施設間の連携が円滑に行うことが、栗東市を住みよいまちにするために大切であると思う。

会長

今回は住民基本台帳の人口を基にして人口推計を行ったということだが、今年は国勢調査が実施されるので、その結果とのズレが大きくならないように考慮していただきたい。

地域別の動向は、学区ごとには難しいであろうが、ある程度は細かに地域ごとの施策を考えていく必要があると考える。例えば、旧村ごとの人口動向や高齢化、市内での転居状況などを検討していただきたい。

また、若い人が学校を卒業すると出ていく状況については、出ていく人を抑えることなど、もう少し分析されると良いのではないかと。

※原案通り了承。

(2) 市民アンケート調査結果（概要）について…資料2

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

アンケート項目の問16にある転居希望の場所について、草津市や守山市と答えている割合が高い。草津市では、認知症加算やデイサービス、紙オムツなどに独自のサービスが充実しており、福祉面で差がある。このようなことから、草津市や守山市に（転居を）希望される原因があるのではないかと。

委員

アンケート項目の問16について、今の場所に住み続けたいという人が6割程度いる。その理由となっている愛着、誇りなどに関して、栗東市に転居してきた人が愛着や誇りを感じることは何かを考えていく必要がある。

これは、幼稚園や小学校の時に子どもたちに歴史や魅力を伝えていっている場があるかどうか。教育の世界で、ここにいたいと感じるようなまち、まちのことを子ども

達にもっと知ってもらうことが大切ではないか。

国道のこっちとあっちで交流できる仕掛けが大切である。文化的にも違うので、愛着や誇りを感じることでできるまちということについて、もう少し掘り下げても良いのではないか。

栗東市は交通の拠点であり、東海道、中山道の位置するこの場所がなければ東西文化が融合できなかつたとも言われている。便利さも大切だが、歴史的な意義やまちのポテンシャルを学ぶ機会を作ることを考えて、ビジョンの中に入れていくことも大切ではないか。栗東市に愛着や誇りを持つ人の思いを広げていく施策も重要と考える。

地域間競争の中で、人の引っ張り合いをすることも出てくるかもしれないが、その中であって、愛着や誇りを教育することも大切ではないか。

事務局

市の魅力や誇りをどうしていくかが課題であると考えており、現在、本市の地域資源の活用に向けて、地域資源活用ビジョンを策定している。これに基づき、市の誇りをいかにして発信していくのかを示した、シティセールス戦略の検討も進めているところである。これらのビジョン等の中にも地方創生に結びつく施策もあり、十分に反映していきたいと考えている。

委員

学区別アンケートでも、学区によって愛着などが違うかもしれない。それを分析するとそこから見えてくるものがあるのではないか。

委員

アンケート回答者の半分以上が子どものいない人達だが、その人達が自分の住んでいる学区を理解されているのか。アンケート結果を見ると、市内でも大宝学区と大宝東学区の人口比率は高いことから、これ以上に回答数があっても良いと思うが、自分の住んでいるところが、子どもが小学校に通学している方であれば、わかっておられると思うが、大宝学区か大宝東学区かがわかっておられない可能性もあると思う。そのようなことから、あまり学区に拘る必要はないと思う。

事務局

アンケート調査表には、自分の住んでいる学区が分からない場合は自治会名を書いていただけるようにしている。回答数が少ない学区については、実際に回答いただける人が少なかったのではないかと考えている。

委員

アンケート調査結果について、40%弱の回収率では残りの60%には逃げられるのではないか。アンケートの回答が多く返ってくることが、市に対する意識が高くなっていると思う。

会長

今後、アンケート結果の分析を進め、総合戦略に反映していただきたい。今後、高齢

者施策、子どもの育み、地域愛着などについても分析いただき、委員からの意見も参考にさせていただきたい。

※原案通り了承。

(3) 滋賀県における地方創生の取り組みについて…資料3、4

《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

県が策定する施策に沿った形で、栗東市の計画も策定していくのか。

事務局

県としての独自戦略プロジェクトもあり、県内の市町全が取り組まなければ県の目標が達成することができない施策については、本市も実施する必要があるが、それだけに囚われずに、本市独自のものを示していく必要があると考えている。

県との整合を図るために取り入れていく施策等もあるが、全てを県の計画に基づいて、下位計画のように策定するものではない。

委員

資料4の7ページに地域活動・住民活動の促進とある。栗東市にもボランティアやNPOの団体が設立されて活動しているが、市と団体の活動が重複している場合がある。少し調整をすることで協働の取り組みとなるものや、市がアウトソーシングして手を離すことで、団体に上手く渡すことができるものが多い。

今後、効率的にまちづくりを進めていくためにも、これらの団体の方を有効に使うということも考えてもらいたい。

委員

地方創生は地域間競争に勝っていくために、人口減少を食い止める必要があるという考え方に基づくものだが、栗東市の43%以上を森林が占めており、栗東市のまちづくりを進めていく中で、二酸化炭素排出量の少ない低炭素社会に貢献し、安全安心のまち、環境のまちを目指していますよ、このようなまちに住んでみませんかと打ち出したうえで地域間競争に勝っていくのであれば、人口が減っても仕方ないのではないかと。他とは違った所がキラッと光る何かがあれば良い。

人口減少を食い止めること地方創生であるというのは、少し違うのではないかと考えている。滋賀県の計画を見ても、琵琶湖という文言を消せば、人口減少というところだけ見れば、どこのまちの計画になるように思う。栗東市もこれでいくとなると、総花的で栗東らしさが無くなってしまわないかと懸念する。

事務局

人口減少は日本全体の課題であり、人口が減少すると社会的に活性化も失われるということや、生産性も落ちてしまうこともあるので、この人口減少を食い止めることは国から出てきた方針である。それに基づいて県も市町村も施策をなささいということ言われている。それを受けて、人口が減少している市町村などは減少を食い止める施策を必死になって行う。それに国が援助していくこととなる。

その結果、市町村間での人口の取り合いが起こる可能性があり、栗東市としては、人口の持続的な水準維持を考えているが、現状の交付金制度が移行されようとしており、市の施策を打ち出さなければ、国、県の支援を受けられないということになるので、市としても力を入れ、総合戦略を策定していく必要がある。

人口の取り合いということではなく、それぞれの地方の特徴を活かした施策を考えていくことが地方創生と考えている。

会長

今後、総合戦略をどのように考えていくのか、市としては人口が減ることは織り込み済みなので、どういうまちをつくっていくか、みんなに栗東に住みたいと思ってもらえるかがポイントとなる。他の町から人を切り取るのではなく、栗東市にいる人が魅力的で住みやすいと思えば、それを見た周辺の人が集まってくる、そういうことが栗東らしいこれからの総合戦略になっていくのではないかと。地域の半分が自然だということも参考に考えてもらいたい。

総合戦略は次回の懇談会で中味について議論していただくこととし、本日は人口ビジョンについて了承いただいた。アンケート結果や滋賀県の取組み等についてご意見をいただいたので、それを参考に総合戦略づくりに活かしていただきたい。

※原案通り了承。

(4) その他

《説明（事務局）》

本日出し切れなかった意見については、意見シートにご記入いただき、事務局に8月31日を目途に提出してもらいたい。

次回（第三回懇談会）の予定であるが、11月10日の午前中または、11月12日の午前中と午後からを考えている。皆様の都合はいかがか。

《会長》

次回11月10日の午前中で開催の予定として、欠席の委員の方の都合なども確認して日程調整をお願いしたい。本日は多数の意見ありがとうございました。事務局にも、意見を踏まえて、総合戦略の検討を進めていただければと思う。

《説明（事務局）》

次回については、11月10日の午前9時30分からの予定とさせていただきたい。また、文書にて別途ご案内をさせていただく。

5. 閉会(副市長あいさつ)

閉会にあたり、ご挨拶いたします。本日は、お忙しい中ありがとうございました。ご意見、ご提案を頂きました内容は検討し、今後人口ビジョン、総合戦略策定の参考とさせていただきます。

今後、市民アンケート調査結果の分析を進め、栗東市に住み続けてこられた原因や出生率の高さの理由など見出せていきたいと考えております。

今後ともご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。

以上